「中学の３年間バレーに全力」

僕は中学の３年間、バレーボールを頑張りました。１、２年生の時はずっと球拾いでしたが、３年生でレギュラーになることができ、センタープレーヤーとして試合に出ることができました。しかし、公式試合では練習の成果が出せず、うまくタイミングが合わずにみんなにとても迷惑を掛け、チームの足を引っ張ってしまって本当に申し訳ないと思う日々でした。

家に帰ると母は勉強しろとうるさく、父はバレーのアドバイスをしてくれましたが、ストレスがたまり、いつも親に当たっていました。僕のスパイクを見た兄からも「下手くそ！」と言われ、それが悔しくて、うまく打てるようになると決心し、努力を続けました。

目標にしていた全国大会への夢は叶いませんでしたが、最後の九州大会ではＡクイックを決めることができました。短い時間でしたが、チームのみんなとバレーができて良かったです。

高校では、兄を超えられるような選手になりたいです。また、これまで支えてもらった家族、仲間、先生方のおかげで今の自分があるので、「ありがとう！」という思いを伝えたいです。